

第 14 回品質保証検討会 議事録

1. 日時 平成 18 年 7 月 26 日 (水) 9:30 ~ 18:00
平成 18 年 7 月 27 日 (木) 9:00 ~ 13:00

2. 場所 日本電気協会 4 階 C, D 会議室

3. 出席者 (敬称略, 五十音順)

出席委員 : 渡邊 (邦) 主査 (東京電力), 飯塚 (東京大学), 石井 (日本原子力研究
開発機構), 伊東 (三菱原子燃料), 今村 (三菱重工業), 大野 (中国電力),
岡野 (九州電力), 小宮山 (グローバル・ニュークリア・フュエル・ジャ
パン), 齋藤 (三菱電機), 佐々木 (日本原燃), 佐藤 (東芝), 芝原 (日
立製作所), 島津 (北海道電力), 首藤 (電源開発), 鈴木 (中部電力),
竹添 (九州電力), 竹本 (東京電力), 辰巳 (北陸電力), 手束 (四国電力),
古川 (日本原子力発電), 宮越 (三菱重工業), 結城 (原子力安全・保安
院), 米田 (原子燃料工業), 渡辺 (雅) (原子力安全基盤機構)

代理委員 : 小坂 (原子力安全・保安院 長谷部代理)

欠席委員 : 溝内副主査 (関西電力), 大友 (東北電力), 高橋 (富士電機システムズ),
中條 (中央大学), 宗像 (原子力安全・保安院)

事務局 : 池田, 長谷川, 国則 (日本電気協会)

4. 配付資料

資料 No.14-1	第 13 回品質保証検討会 議事録 (案)
資料 No.14-2	「JEAC4111-2003」エキスパート研修プログラム
資料 No.14-3	JIS Q 9001:2000 に関するウォーミングアップクイズ
資料 No.14-4	グループ研修チーム分け
資料 No.14-5	研修テーマ (A1 ~ A3, B1 ~ B3, C1 ~ C6)
資料 No.14-6	事例研究まとめ表
資料 No.14-7	エキスパート研修に寄せて
資料 No.14-8	平成 18 年度 JEAC4111 講習会 (東京コース 平成 18 年 10 月 18 ~ 19 日) の開催要項について
資料 No.14-9	審査における不適合処理の適正化について (案)
資料 No.14-10	溶接安全管理検査制度に関する規制当局としてのレビュー

参考資料 No.14-1 第 16 回品質保証分科会議事録 (案)

- 事例研究まとめ結果（A チーム：テーマ A-3/B-1/C-1/C-5，B チーム：テーマ A-2/B-2，C チーム：テーマ A-1/B-3，D チーム：テーマ A-1/B-1，E チーム：テーマ A-2/B-2/C-2，F チーム：テーマ A-3/B-3）

5. 議事

(1) 代理委員の承認と会議定足数の確認

渡邊（邦）主査による代理者の承認の後，事務局より，出席委員数が議案決議の条件である委員の 3 分の 2 以上という，定足数を満たしていることが確認された。

(2) 第 13 回品質保証検討会議事録案について

資料 No.14-1 に示す第 13 回品質保証検討会議事録案について，本内容で正式な議事録とすることが全員の賛成で承認された。

(3) エキスパート研修

(3-1) 研修の目的と自己紹介

渡邊（邦）主査から，検討会委員の能力向上とともに，今後開催するコース 講習の予行演習も兼ねた今回の研修の目的が紹介された後，出席者の自己紹介を行った。

(3-2) JIS Q 9001:2000 に関するウォーミングアップクイズ

資料 No.14-3 に基づき，JIS Q 9001:2000 に関する基本問題を各自で解いた後，竹本委員による解答と解説の紹介とともに，JIS と JEAC4111 の内容の相違による考え方の違いなどについて議論を行った。

(3-3) 委員講演

結城委員より，「原子力品質保証のこれまでの道のりを振り返る」および「効果的な品質保証の実現を目指して」のタイトルでの講演と，資料 No.14-9，10，参考資料 No.14-2 の内容の紹介をいただいた。

(3-4) グループ研修

A～F チームの 6 グループに分かれ，各々の担当する事例を検討した後，事例研究まとめ結果にまとめた内容を各グループリーダーが発表し，全体で討議を行った。

(3-5) 分科会長講演

飯塚分科会長より、「エキスパート研修に寄せて」（資料 No.14-7 にパワーポイントスライドの内容を示す）のタイトルで講演をいただき、質疑応答を行った。

エキスパート研修に関する主な意見は以下のとおり。

[コース の講習内容全般について]

- ・ 品質保証部門は、トップマネジメントに対して課題を明確に示す必要があり、報告やコミュニケーションのツールには、マネジメントレビューの活用を検討するのがよいと思われるが、品質保証部門の役割をあらためて考えてみることも、有効な講習になるものと考ええる。
- ・ 講習に、品質保証部門の役割に関する内容を含めるのであれば、講習内容や資料にも考慮が必要である。
- ・ 規格の理解や QMS の仕組みだけでなく、良好に運用するために何をすべきかについての講習も有効と考える。
- ・ QA のリーダーとしての能力を高めることなど、本来のコース の目的を踏まえて、講習の内容を検討すべきである。
- ・ 事前に受講者から、講習で何を学びたいか、どのような目的意識を持っているかを調査し、講習内容に生かすのがよい。
- ・ 受講者に品質保証部門の役割などを事前に考えてもらい、目的意識を持って来てもらうのがよい。
- ・ 講習会に参加すれば何かを与えてもらえると考えのではなく、自分で何をくみ取るかという積極的な意識を持ってもらうことが大事である。
- ・ ウォーミングアップクイズについては JIS と相違する JEAC4111 の内容に合わせて一部修正のうえ、事前に送付して解答を考えてきてもらい、それぞれの解答について議論するのがよい。

[事例研究の内容について]

- ・ どこまで議論してもらい、どこまでの解答を期待するかということを考えたうえで、事例研究に使用する「トラブル事例 / 身近な疑問点等報告書」の、「事象」欄に記載する情報量やその内容を検討する必要がある。
- ・ 現在の事象の記載は、ポイントを絞って関連する内容のみにまとめているが、ポイントがどこか考えて読み取ってもらうためには、事象をまとめず淡々と記述することも有効と考える。
- ・ 今回の報告書は、各社で調査報告まで作成したものから内容を抜粋したが、講習で事例を通して何をどのように検討、勉強してもらうかというシナリオを作り、それに合わせて事象を記載するのがよい。

- ・ 不足情報があれば質問するように指示したうえで、初めに与える情報は完璧にせず、それぞれの受講者が関心を持ったところを深掘してもらいやり方も可能である。
- ・ それぞれの事例に模範解答を準備すべきである。
- ・ シナリオとそれに合わせた報告書の作成や、模範解答を準備することは、講師側のスキルアップにもつながるものとする。
- ・ 今回は各チーム 4 つと事例が多すぎたので、数を絞り、ひとつの事例に時間をかけるのがよい。
- ・ レベル の講習に相応しい事例をさらに収集したい。

[その他]

- ・ テーマ C4 の技術的に難易度の高い製品の調達管理について、発注元としては、自社に製造能力がない場合も、調達先の製造を管理する技術的能力は持っていなければならない。外部コンサルタントの雇用などで実現してもよい。

(4) 講習会等普及計画について

分科会委員経由の事前調査で、10 月 18、19 日に東京で開催するコース の参加希望者が約 200 名と当初の予定定員を超えたため、対応について議論した結果、今年 12 月に東京でもう 1 度同じ内容の講習会を開催することが、2 名を除く出席委員の賛成で承認された。また、来年 1 月に大阪で開催するコース の講習会の講師担当者については、普及促進チームで再度検討することとした。

本件に関する主な意見は以下のとおり。

- ・ 開催回数を増やすのであれば、受講者とのコミュニケーションを取るために、定員を少な目にしたい。
- ・ 本来の狙いに合わない、ISO9001 の内容の理解が足りない受講者により、講習会が肥大化することは不適切と考える。
- ・ 受講希望のある協力企業など、講習希望者のニーズに応えることも必要である。
- ・ 講師を担当することによる、メンバの能力向上も狙いのひとつであれば、積極的に講習会を開催するのがよい。一方、講師の負担を減らす必要がある場合は、DVD 等による講習教材を作成し利用することも考えられる。

(5) その他

次回検討会の開催日程は、追而調整のうえ決めることとする。

以 上